

税について考えたこと

学校法人呉武田学園 武田中学校 3年 湯浅 朱莉

二〇一四年七月二日。これは私の姉の命日です。姉は「悪性脳腫瘍」になり、一年間の闘病の末、十歳で亡くなりました。この病気は年間の発生率が十万人当たり一人という患者数が極めて少ない希少がんです。

私は今回税についての作文に応募するため税について様々な事を調べました。その際、母から興味深い話を聞きました。それは「小児慢性特定疾病医療費助成制度」についてでした。姉の病気はその制度の対象だったと母は言いました。最初は「慢性？」「助成制度？」と上手くイメージが出来ませんでした。母に尋ねると

「お姉ちゃんの病気は難病に指定されていて治療するには高額な医療費がかかっていたの。でもその制度のおかげで医療費を負担してもらえたんだよ。とてもありがたかったよ。そして、それは税金のおかげでもあるんだよ。」と説明してくれました。また、父も

「対象疾病になる程、我が子が深刻な状況なのだということが身に染みた。申請するのもすごく辛かった。肉体面や精神面全てにおいて苦しかったが、金銭面では助かった。」

と話してくれました。

「出来ることなら代わってやりたい どうしてうちの子がこんなに辛い思いをしなければならないのか。」

と当時両親は心の中で叫んでいたそうです。我が子が難病患者となった場合、どんな治療であっても可能性がわずかでもあるのならば受けさせてあげたいと思うのはどの親でも同じだと思います。そんな時、この「小児慢性特定疾病医療費助成制度」は高額医療に金銭面で不安を抱える患者家族の心に寄り添える良い制度だと思います。残念ながら姉は亡くなりましたが、この制度のおかげで悔いのない治療が出来たのだと思います。

私たち国民が払っている税金。私はなぜ税金ってかかるのだろうか？本当に払わなくてはいけないのか？などと疑問に思うこともありました。しかし、調べていくうちに医療費助成以外にも教科書無償給与、上下水道の整備、道路の整備、警察や消防、ゴミ処理費用に至るまで私たちの暮らしの安全や生活しやすい環境を作るための様々なことに税金が使われているのだと知りました。

今までの自分を振り返ると、「消費税なんて無いほうがいいのに。」とか「大人になると税金を払わなくてはならないので嫌だな。」など、どちらかというマイナスイメージを持っていました。でも、私たちが安心して快適な生活ができるのは決して当たり前ではないのだと気付きました。私たちの税金が様々な公共事業に使われ、私たちの生活に返ってきていると考えたら、ちゃんと税金を納めないといけないと思いました。そして、国には税金を納めて良かったと心から思えるような政治を望んでいます。